

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

病院長名	佐藤 公治
	〒466-8650
所在地	愛知県名古屋市昭和区妙見町2番地の9
交通案内	地下鉄：名城線八事日赤駅下車 2番出口すぐ バス：市バス妙見町行 八事日赤病院停下車

□ 病院の特徴

当院は、歴代院長が首尾一貫した方針で病院の進むべき方向性を定め、歴史と伝統である救急医療、高度医療、災害救護と国際救援、周産期医療、医療連携、研修医教育などを推進することによって現在の病院にまで発展してきました。

特に“研修医は病院発展の原動力”との考えのもと、研修医教育には最重点を置き、専攻医、研修医教育指導体制の充実を図ってきました。

□ 研修プログラムの特徴

日本赤十字社愛知名古屋第二病院麻酔科専門研修プログラム（研修期間：4年）

専門研修基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院麻酔・集中治療部には約29名の麻酔科常勤医が在籍しています。当院の年間手術件数は約8300件ですが、麻酔科管理麻酔件数は4800件を超え、全身麻酔はすべて麻酔科医が行う体制となっています。専門研修プログラムで経験すべきとされている特殊症例の麻酔を含め、外科系ほぼすべての科の麻酔を経験することができます。ペインクリニック、緩和医療、術後疼痛管理にも力を入れています。当院のICU(general ICU、PICU)は麻酔科医が24時間体制で管理するclosed ICUで、内科系、外科系、小児の重症患者の診療を行っています。年間のICU入室患者数は約1200名で、ほぼ半数は救急外来からの直入です。当院は救命救急センターを有し多くの救急患者を受け入れています。多様な救急疾患や外傷患者の診療を行ううえで、麻酔科医が果たす役割は非常に広範囲です。救急外来での救命処置、ICUでの集中治療、緊急手術の術前・術中・術後管理と、重症患者診療の流れに一貫して関わっています。また、赤十字病院の使命である国内災害救護、DMAT、国際赤十字の医療救援活動にも積極的に麻酔科医を派遣しています。本プログラムでは基幹施設のこのような特性を生かし、周術期の麻酔管理に加え、広く救急・集中治療領域のスキルや国際感覚をも身につけた付加価値の高い麻酔科専門医を育成します。専門研修連携施設である大学病院、小児専門病院では、基幹施設では経験できない特殊な手術の麻酔や多様な小児手術の麻酔、小児病院におけるPICUを経験することができます。



□ 主な連携施設

あいち小児保健医療総合センター、名古屋大学、名古屋市立大学、藤田保健衛生大学、愛知医科大学、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、中京病院、春日井市民病院、埼玉県立小児医療センター、大阪母子医療センター

□ メッセージ

第二麻酔・集中治療部長・麻酔科 PG 責任者/麻酔・集中治療科 寺澤 篤 「麻酔・集中治療の面白さを」

私たち麻酔・集中治療科は、手術室での麻酔と集中治療室での治療を担当しています。

当院での麻酔科管理麻酔の件数は、年間5000件近くあり、心臓血管外科、脳神経外科、産科、小児麻酔など専門医取得に必要な症例は経験できます。

また、救急外来の救急車の受け入れも年間1万台近くあるため、重症の緊急手術の麻酔を救急外来から集中治療室における治療まで一貫して携わることができ、様々な事象に対処できる力がつきますし、将来的に、サブスペシャリティとして何を選ぶにしても、大丈夫という根幹が得られると思います。

第三麻酔・集中治療部長兼国際医療救援部長 杉本 憲治

「災害救援医療で医師としての力試しを」

当院は赤十字の病院として国内外を問わず医療救援活動を行っています。能登やウクライナにも麻酔・集中治療科から人材を派遣しています。救援医療は、医師としての知識・技術・経験を磨くことができ、社会に貢献できる貴重な場です。是非チャレンジしてみてください。

第一麻酔・集中治療部長 棚橋 順治

「患者さんとじっくり向き合える仕事」

痛み診療として、ペインクリニックだけでなくがん疼痛を代表とする緩和ケアにも取り組んでいるのも当院の特徴のひとつ。生死と直面するケースもしばしばありますが、患者さんと向き合う中で人と人とのつながりを感じることができる、やりがいのある仕事です。若いドクターにも経験してもらいたいと思っています。

□ 募集要項

・採用予定人数	3人
・給与/月額	3年目 平均約750,000円/月
・当直回数/月	診療科によって異なる
・当直料/回	
・その他	
・応募連絡先	担当者 教育研修管理課
	電話番号 052-832-1121
	Eメール education@nagoya2.jrc.or.jp